

テキストアナリシスによる『むつぼしのひかり』第1集のことば

伊藤孝行

本発表では明治から昭和初期にかけて刊行された点字による総合雑誌『むつぼしのひかり』墨字訳第1集(第1号から第10号)を資料とし、テキストアナリシスによる調査・検証を試みる。

『むつぼしのひかり』は1903(明治36)年に創刊され、点字による総合雑誌として明治・大正・昭和初期まで刊行された。原文は点字のため点字を読むことができないと内容を理解することがかなわなかった。2016年に桜雲会点字出版部から『むつぼしのひかり』墨字訳第1集(第1号から第10号)が刊行され、現在も続編が刊行中である。そのおかげで点字を解することができない者にとってもその内容を理解することができるようになった。『むつぼしのひかり』はその刊行時期(明治から昭和初期まで)、刊行頻度(月刊)、内容(論説・講演・雑録・和歌等)共に豊富であり、言語資料としての資料価値もひじょうに高いと言える。

本発表では『むつぼしのひかり』墨字訳第1集のテキストデータ(約150000字)を作成し、使用されていることばの実態を調査する。『むつぼしのひかり』墨字訳第1集に収録されている号ごとの語についてどのようなことばがどれほど使用されているのか、どのようなことばの連なりがどれほど使用されているのか、どのようなことばが共起しているのか、その共起度はどれほどであるのか、『むつぼしのひかり』の特徴語はどのようなことばなのかを明らかにする。